

大阪経済の情勢

(平成25年3月指標を中心に)

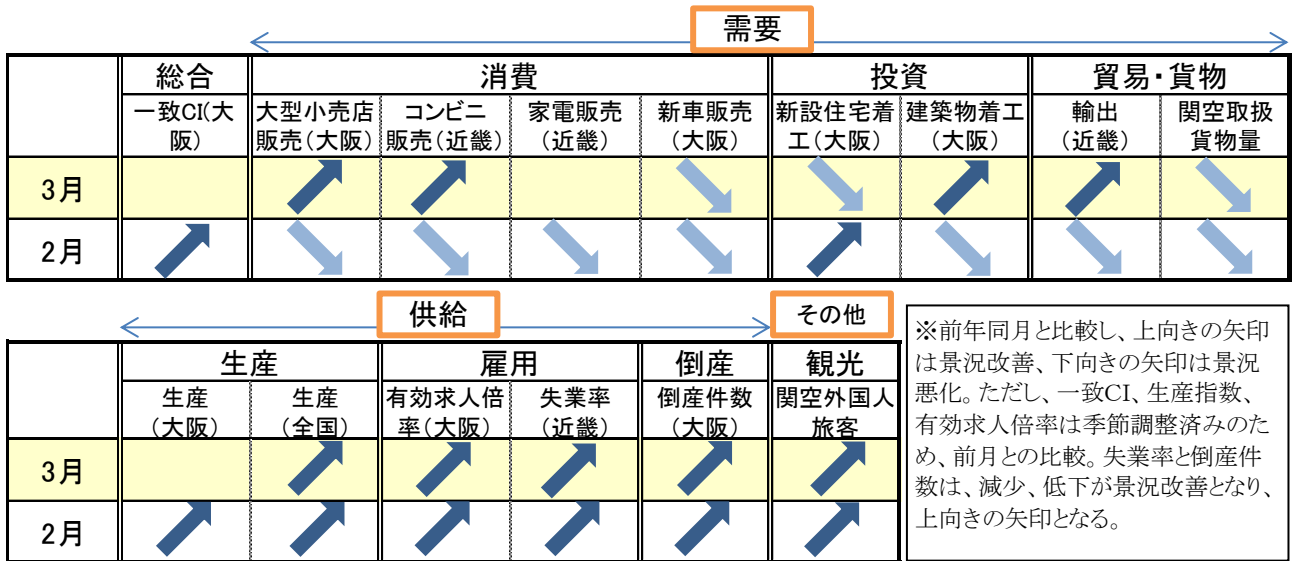
平成 25 年 5 月
大阪府商工労働部
(大阪産業経済リサーチセンター)

「大阪経済は、持ち直しの動きがみられる」

需要面では、個人消費は下げ止まっている。家電販売、新車販売は減少したが、大型小売店販売、コンビニ販売は増加。家計消費支出は増加。投資は、住宅投資は減少、非居住用建設投資は増加し、総じて民間の投資は横ばいの動き。公共投資は減少。輸出は2ヶ月ぶりに増加し、主要国向けではすべての地域で増加。海外経済は徐々に持ち直している。輸入は、3ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空、大阪港ともに減少。

供給面では、生産動向は持ち直しの動きがみられる。大阪府(2月)は出荷が低下したが、生産が増加。近畿の生産(3月、鉱工業)は上昇、全国の生産(同)は上昇。在庫循環は在庫調整・在庫減らし局面。雇用は緩やかに持ち直している。所定外労働時間は減少したが、近畿の失業率は改善、有効求人倍率、新規求人倍率はともに上昇。倒産は件数、負債金額ともに減少。

先行きについては、景気動向指数(先行)は上昇。今後は、海外経済は徐々に持ち直しているものの、引き続き注意が必要。



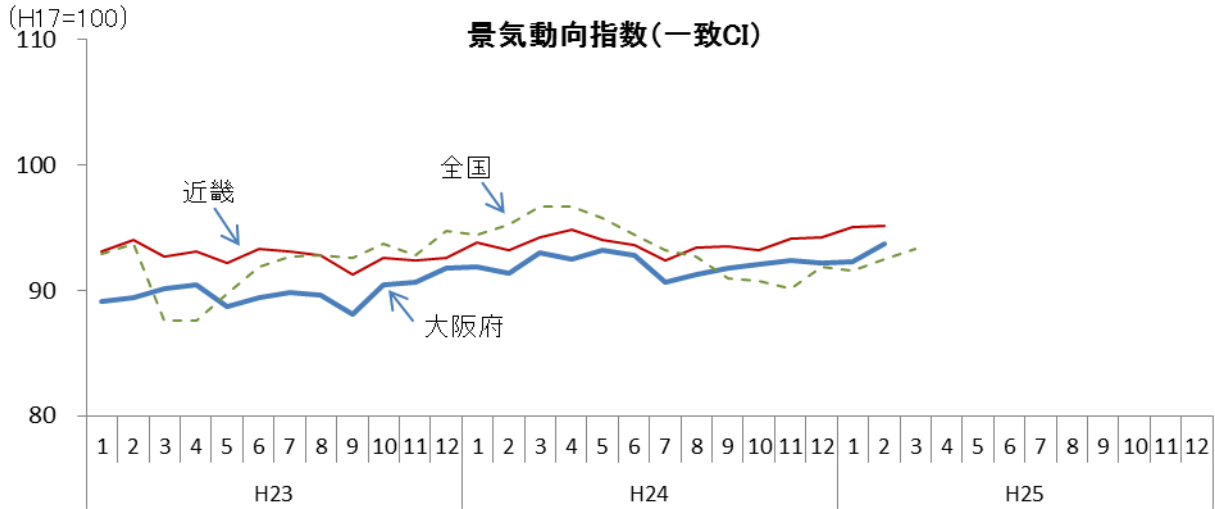
(参考)他機関の総括判断

	前回(25年3月公表分) (25年1月指標中心)	今回(25年4月公表分) (25年2月指標中心)
内閣府 「月例経済報告」	景気は、一部に弱さが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。	景気は、一部に弱さが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
近畿経済産業局 「近畿経済の動向」	近畿地域の経済は、持ち直しの動きがみられる。	近畿地域の経済は、持ち直しの動きがみられる。
日本銀行大阪支店 「近畿地域金融経済概況」	近畿地域の景気は、なお弱めながらも、持ち直しに向けた動きが徐々に広がりつつある。	近畿地域の景気は、なお弱めながらも、持ち直しに向けた動きが徐々に広がりつつある。

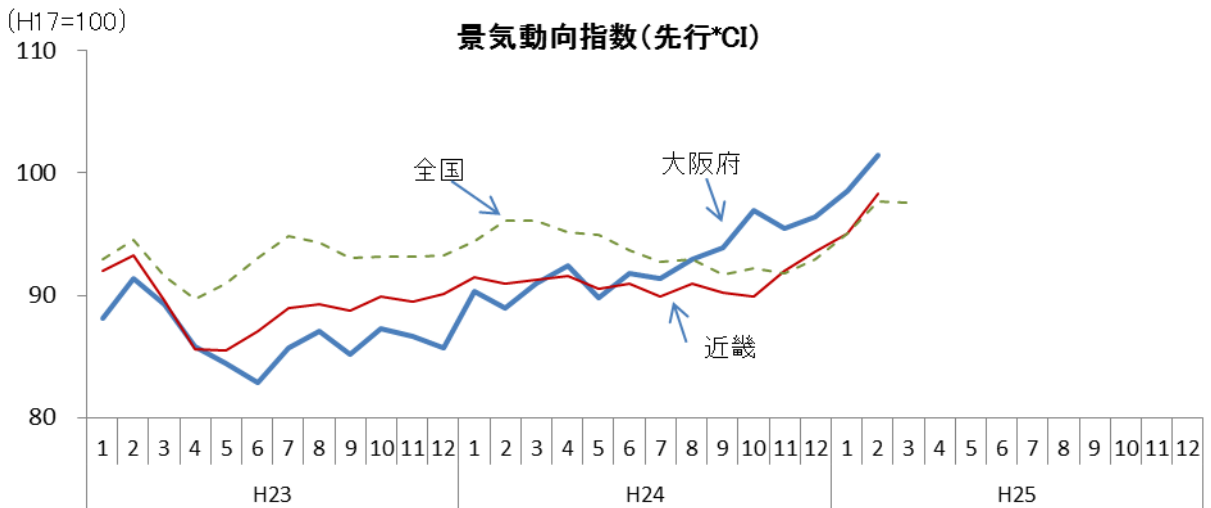
※以下、Pは速報値を表す

[総合]

○景気動向指数(CI)【大阪府(2月)は一致、先行ともに上昇。近畿(2月)は一致、先行ともに上昇。大阪府(一致CI)は、主に有効求人倍率、所定外労働時間指数が上昇に寄与。全国(3月速報)の一致は上昇】



(資料)大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」



(資料)大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」

※先行 CI は、3ヶ月から半年程度、景気に先行する指標で構成されている。

一致 CI

	H25年 1月	2月	3月
大阪府	92.3	P 93.7	
近畿	95.0	P 95.1	
全国	91.6	92.5	P 93.3

先行 CI

	H25年 1月	2月	3月
大阪府	98.5	P 101.5	
近畿	95.1	P 98.3	
全国	95.0	97.7	P 97.6

一致CIの個別系列の寄与度*(大阪府、2月速報)

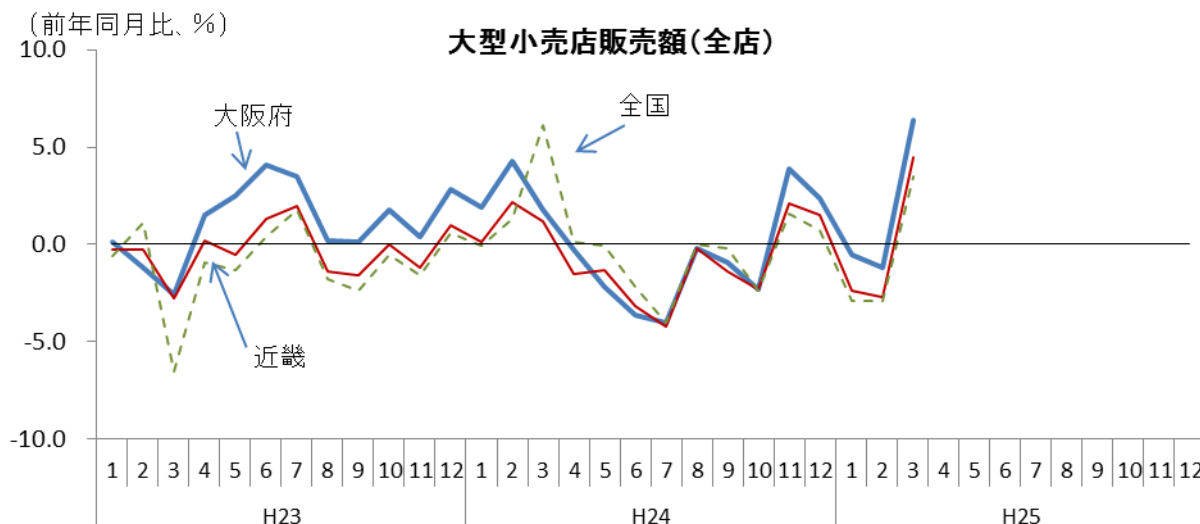
百貨店売場面 積当たり販売額	大阪税関管内 輸入通関額	製造工業 生産指数	生産財 出荷指数	関西大口電力 使用量(合計)	有効求人倍率	所定外労働時間 指数(製造業)
▲0.07	▲0.14	0.13	0.07	0.13	0.59	0.64

※寄与度とは、CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

[需要] 消費

個人消費は下げ止まっている。家電販売、新車販売は減少したが、大型小売店販売、コンビニ販売は増加。家計消費支出は増加。

○大型小売店販売額(全店)【大阪府は2ヶ月ぶりの増加】



(資料)近畿経済産業局「大型小売店販売状況」、経済産業省「商業販売統計」

		H25年1月	2月	3月
販売額(億円)	大阪府	1,469	1,249	P 1,450
前年比(%)	大阪府	▲0.5	▲1.2	P 6.4
	近畿	▲2.4	▲2.7	P 4.5
	全国	▲2.9	▲2.9	P 3.5

大型小売店販売の商品別の主な増減 (大阪府、全店、前年同月比(%)、3月速報)

増加	身の回り品(19.7)、食堂・喫茶(16.3)、衣料品(9.1)、家具・家電・家庭用品(4.8)
減少	—

百貨店(大阪府)

	H25年1月	2月	3月
販売額(億円)	765	764	751
前年比(%)	3.6	3.4	9.6

スーパー(大阪府)

	H25年1月	2月	3月
販売額(億円)	704	624	699
前年比(%)	▲4.7	▲5.3	3.2

(参考)大阪府内大型小売店へのヒアリングより

3月は気温が高めに推移したことや、円安に伴う海外高級既製服ブランドの値上げを目前にした駆け込み需要、株価の上昇などもあり、春物のカジュアルジャケット、コート、パンツのほか、時計・宝飾、バッグなど高額商品の動きが活発であった。

また、あさりなど旬の水産物、花見向け惣菜、花粉症及びPM2.5対策用の空気清浄機なども堅調に推移した。

○コンビニエンスストア販売額(全店)【近畿は2ヶ月ぶりの増加】

		H25年1月	2月	3月
販売額(億円)	近畿	1,086	1,013	1,169
前年比(%)	近畿	4.2	▲1.7	4.8
	全国	4.2	▲0.7	5.1

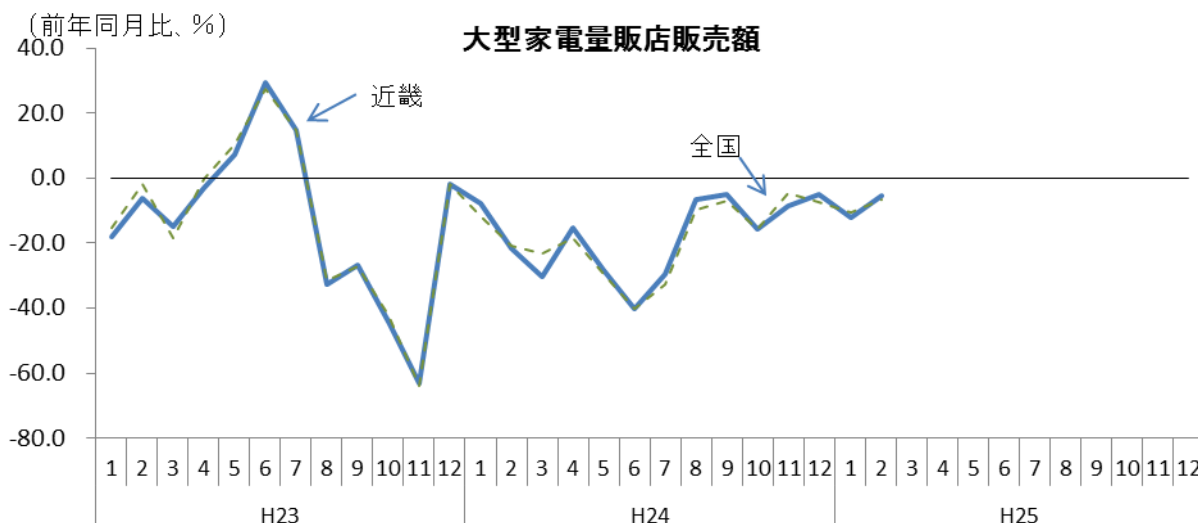
○家計消費支出【大阪市は増加】

		H25年1月	2月	3月
円	大阪市	307,304	246,209	318,761
前年比(%)	大阪市	3.7	▲13.8	1.1
	全国	3.8	2.0	6.5

(資料)総務省統計局「家計調査」 ※二人以上の世帯うち勤労者世帯、一世帯当たりの名目。

[需要] 消費

○大型家電量販店販売額【近畿(2月)は19か月連続の減少。携帯電話などが前年を上回ったが、DVD、テレビなどが下回った】



(資料) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

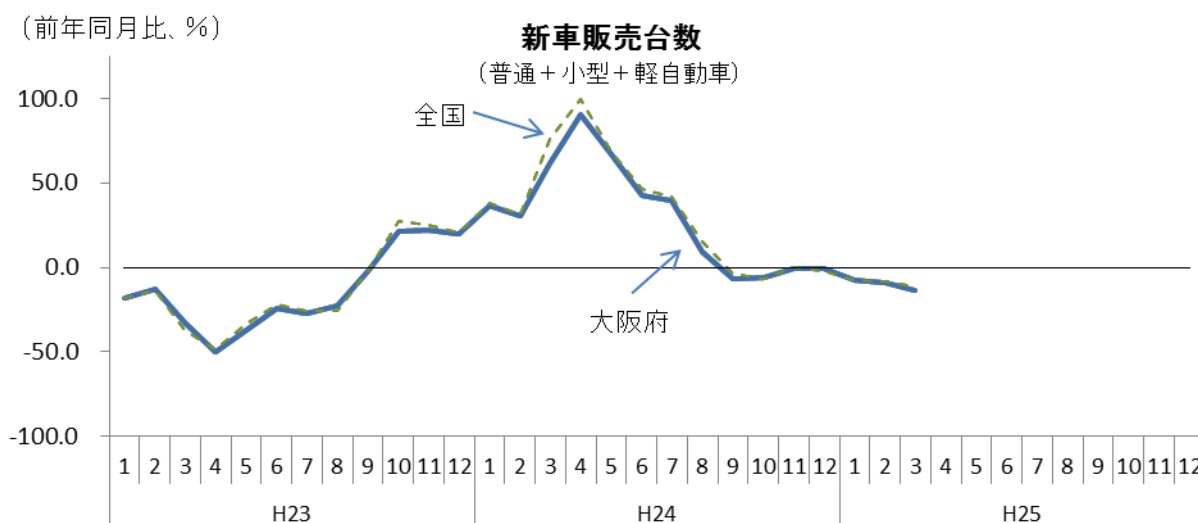
※平成23年4月分よりデータ集計対象企業が変更されたため、前後のデータと連続しない。

		H25年1月	2月	3月
前年比 (%)	近畿	▲12.3	▲5.3	
	全国	▲10.4	▲6.6	

商品別の主な増減
(近畿、前年同月比(%)、2月)

増加	携帯電話(19.0)
減少	DVD(▲30.6)、テレビ(▲21.4)

○新車販売台数【7ヶ月連続の減少】



(資料) (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会

		H25年1月	2月	3月
販売額(台)	大阪府	16,859	21,391	26,813
前年比 (%)	大阪府	▲7.2	▲8.9	▲13.3
	全国	▲7.4	▲8.1	▲11.0

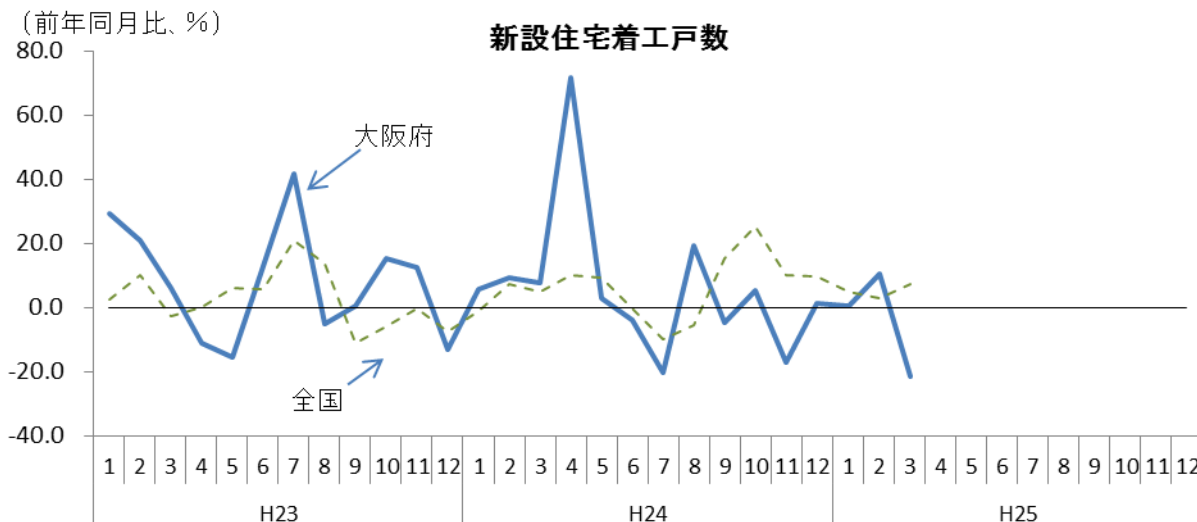
車種別の増減
(大阪府、前年同月比(%)、3月)

普通車	小型車	軽自動車
▲16.8	▲21.8	7.4

[需要] 投資

投資は、住宅投資は減少、非居住用建設投資は増加し、総じて民間の投資は横ばいの動き。公共投資は減少。

○新設住宅着工戸数【4ヶ月ぶりの減少】

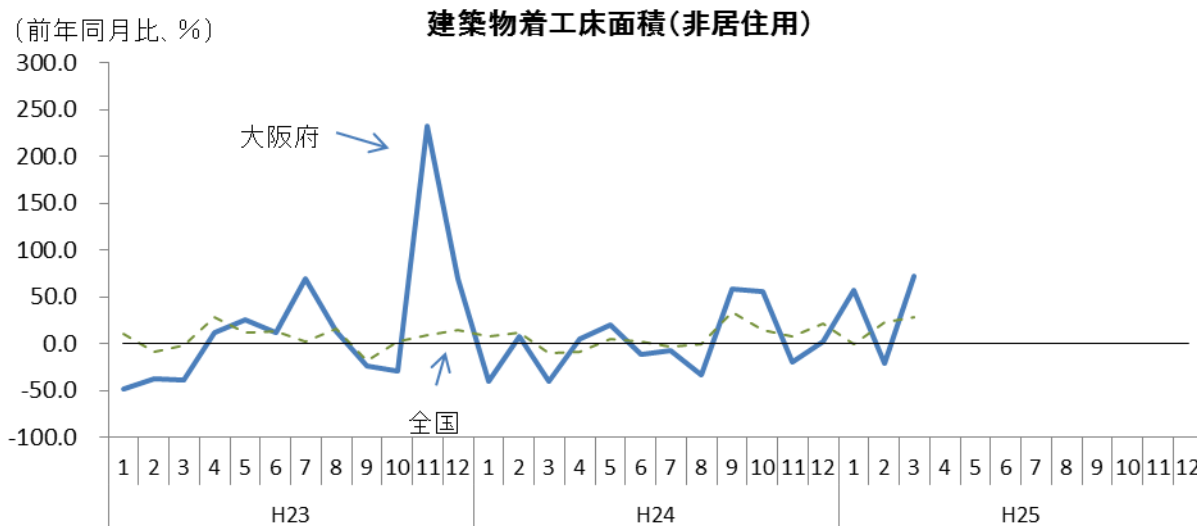


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

		H25年1月	2月	3月
戸数	大阪府	5,312	5,336	4,802
前年比 (%)	大阪府	0.5	10.6	▲21.4
	全国	5.0	3.0	7.3

利用者関係別の増減 (大阪府、前年同月比(%)、3月)		
持家	貸家	分譲
13.4	▲32.2	▲23.1

○建築物着工床面積(非居住用)【大阪府は2ヶ月ぶりの増加。卸小売業、運輸業などが増加】



(資料)国土交通省「建築着工統計」

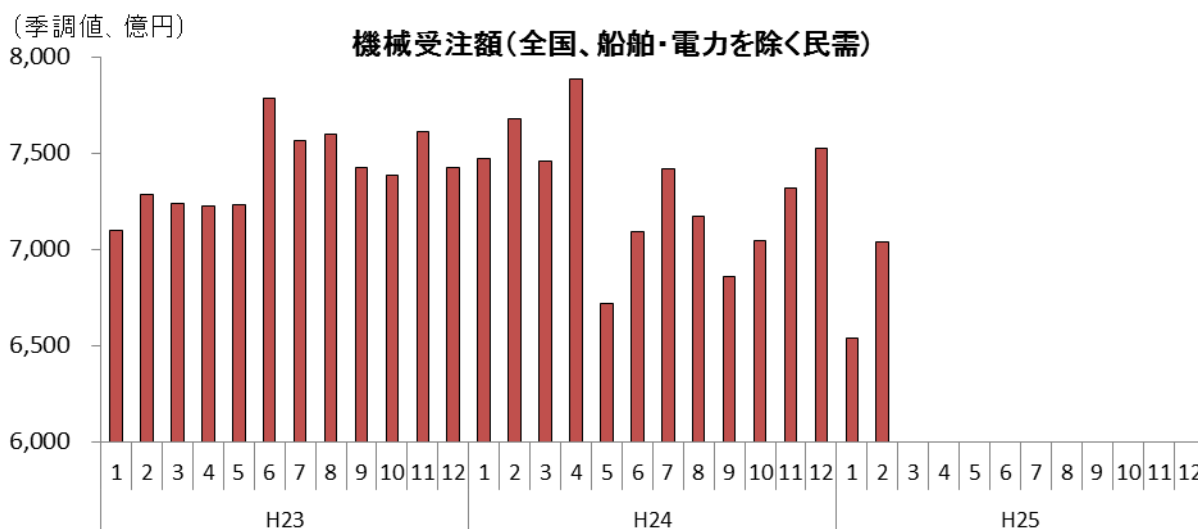
		H25年1月	2月	3月
千m ²	大阪府	293	149	444
前年比 (%)	大阪府	57.6	▲20.6	72.1
	全国	0.2	23.2	27.9

着工床面積の主な増減 (大阪府、前年同月比の寄与度※(%)、3月)	
増加	卸小売業(47.4)、運輸業(23.7) 医療福祉(14.3)
減少	製造業(▲7.5)、 教育学習支援業(▲5.5)

※寄与度とは、全体の増減率の要因として、各業種の増減がどの程度貢献しているのかを表す数値。

[需要] 投資

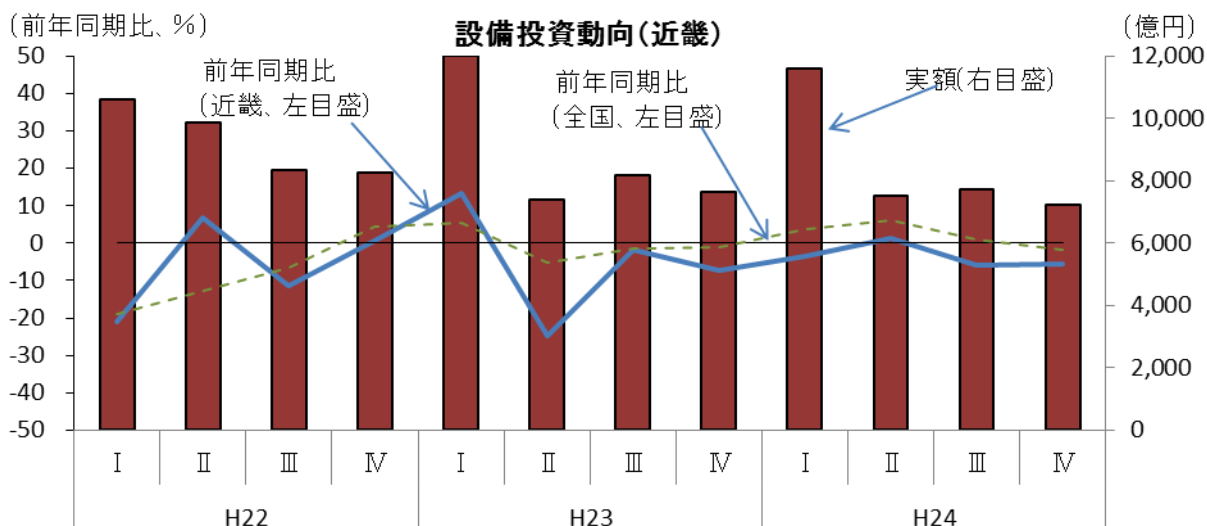
○機械受注額【2月(全国)は増加】



(資料)内閣府「機械受注統計調査」

	H25年1月	2月	3月
全国(億円)	6,544	7,038	

○近畿の設備投資動向【10~12月期は減少】



(資料)近畿財務局「法人企業統計調査」、財務省「法人企業統計」

※資本金10億円以上、全産業(金融・保険業を除く)。ソフトウェアを含む設備投資。

		H24年4~6月	7~9月	10~12月
億円	近畿	7,531	7,723	7,238
前年同期比(%)	近畿	1.5	▲5.8	▲5.6
	全国	6.0	1.1	▲1.9

○公共工事請負金額【2ヶ月ぶりの低下】

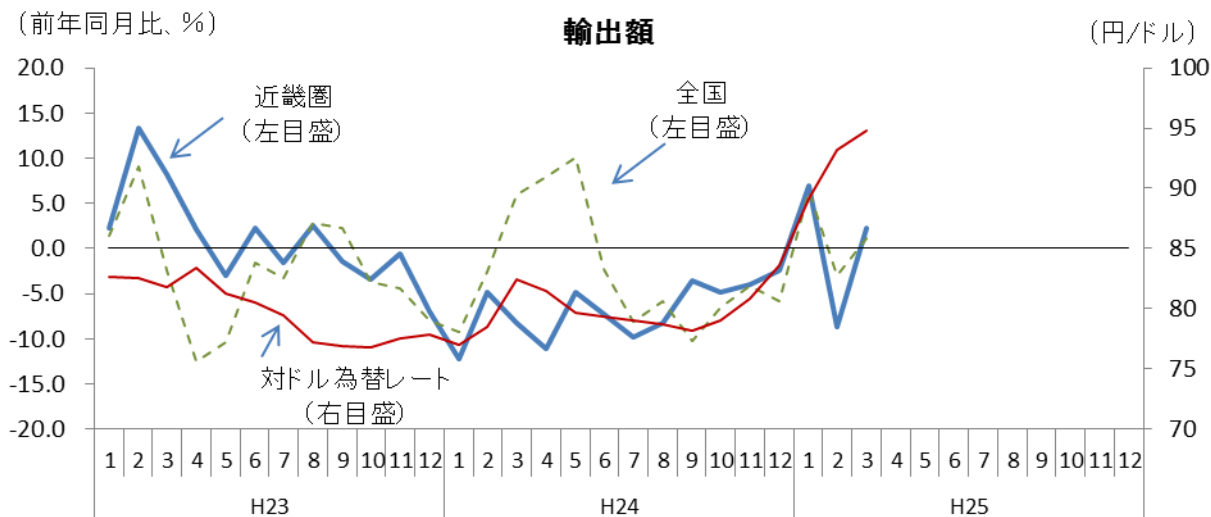
		H25年1月	2月	3月
億円	大阪府	147	309	287
前年比(%)	大阪府	▲13.0	4.8	▲18.8

(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事前払保証統計」

[需要] 貿易・貨物

輸出は2ヶ月ぶりに増加し、主要国向けではすべての地域で増加。海外経済は徐々に持ち直している。輸入は、3ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空、大阪港ともに減少。

○輸出額【2ヶ月ぶりの増加。原動機、科学光学機器などが増加。主要国・地域はすべての地域で増加】



(資料) 大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」

※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

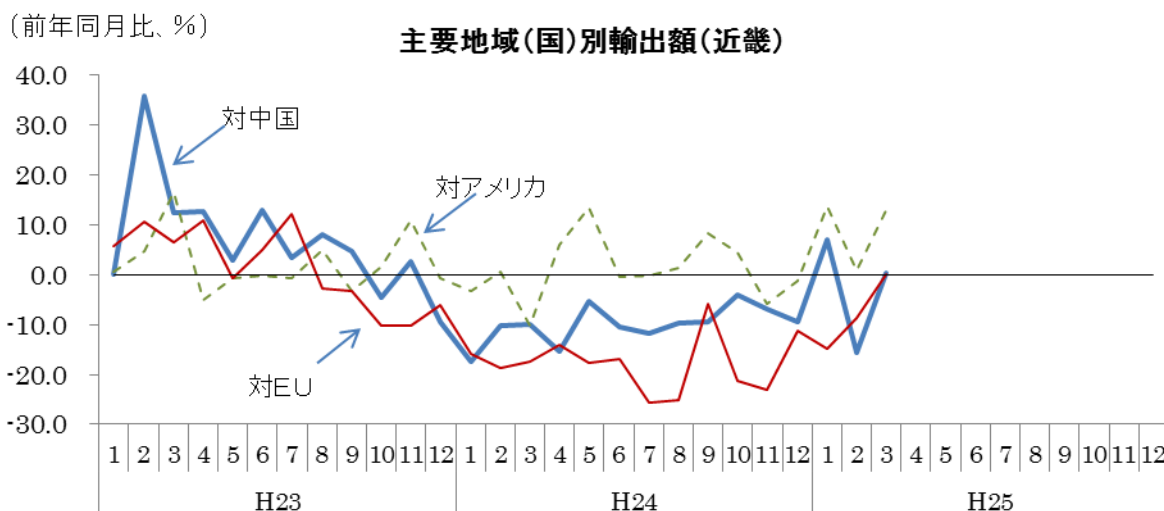
		H25年1月	2月	3月
輸出額(億円)	近畿	9,862	10,540	P 13,109
前年比 (%)	近畿	6.9	▲8.7	P 2.2
	全国	6.3	▲2.9	P 1.1

品目別の主な増減

(近畿、前年同月からの増減額順、3月)

増加	原動機、科学光学機器、有機化合物
減少	鉱物性燃料、音響・映像機器部分品、重電機器

為替レート(円/ドル)	H25年1月	2月	3月
	89.18	93.21	94.75



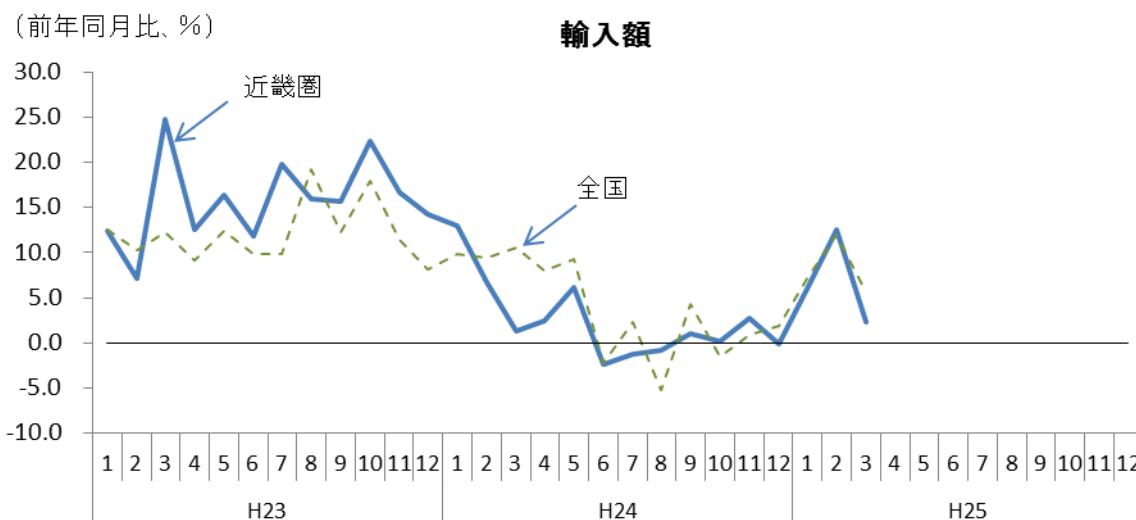
(資料) 大阪税関「貿易統計」

主要地域別輸出額の増減(近畿、前年同月比(%))、3月)

アジア(含む中国)	0.3	2ヶ月ぶりの増加
中国	0.4	2ヶ月ぶりの増加
EU	0.2	20ヶ月ぶりの増加
アメリカ	12.9	3ヶ月連続の増加

[需要] 貿易・貨物

○輸入額【3ヶ月連続の増加。通信機、半導体等電子部品などが増加】



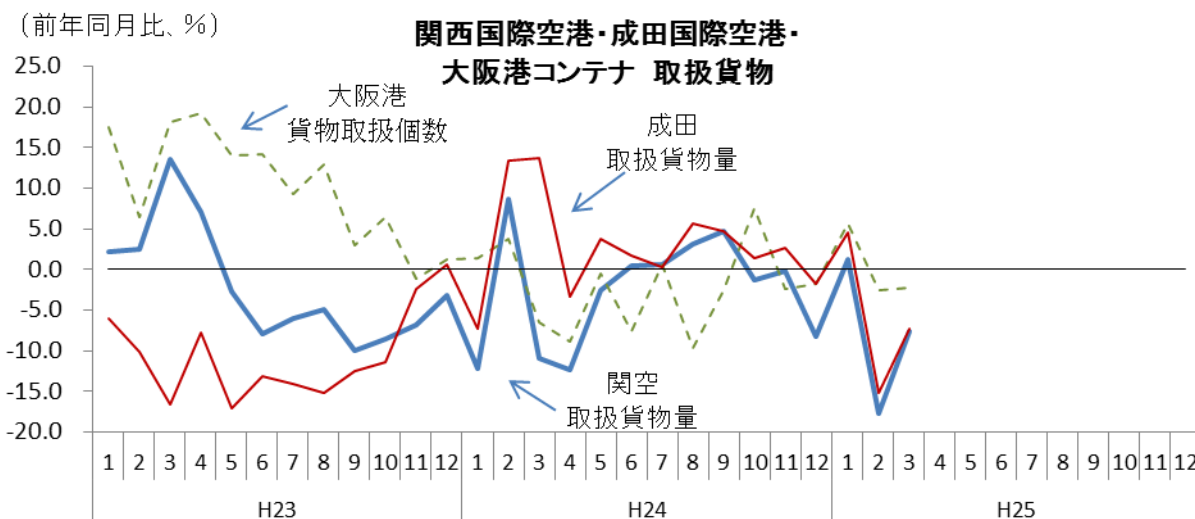
(資料)大阪税関「貿易統計」

		H25年1月	2月	3月	品目別の主な増減 (近畿、前年同月から増減額順、3月)	
輸入額(億円)	近畿	12,204	P 10,784	P 12,172	増加	通信機、半導体等電子部品、 原油及び粗油
前年比 (%)	近畿	6.0	P 12.6	P 2.3	減少	石炭、医薬品、非鉄金属鉱
	全国	7.1	P 11.9	P 5.5		

主要地域別輸入額の増減(近畿、前年同月比(%))、3月)

アジア(含む中国)	5.9	3ヶ月連続の増加
中国	2.7	3ヶ月連続の増加
EU	8.1	3ヶ月連続の増加
アメリカ	▲1.4	4ヶ月ぶりの減少

○関空取扱貨物量【2ヶ月連続で低下】、大阪港コンテナ貨物取扱個数【2ヶ月連続で低下】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」、大阪市「港湾統計」、成田国際空港(株)「運用状況」

※関西・成田国際空港貨物取扱量はトン、大阪港コンテナ貨物取扱個数はTEUで、外貨の実入+空の合計。

※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示す。

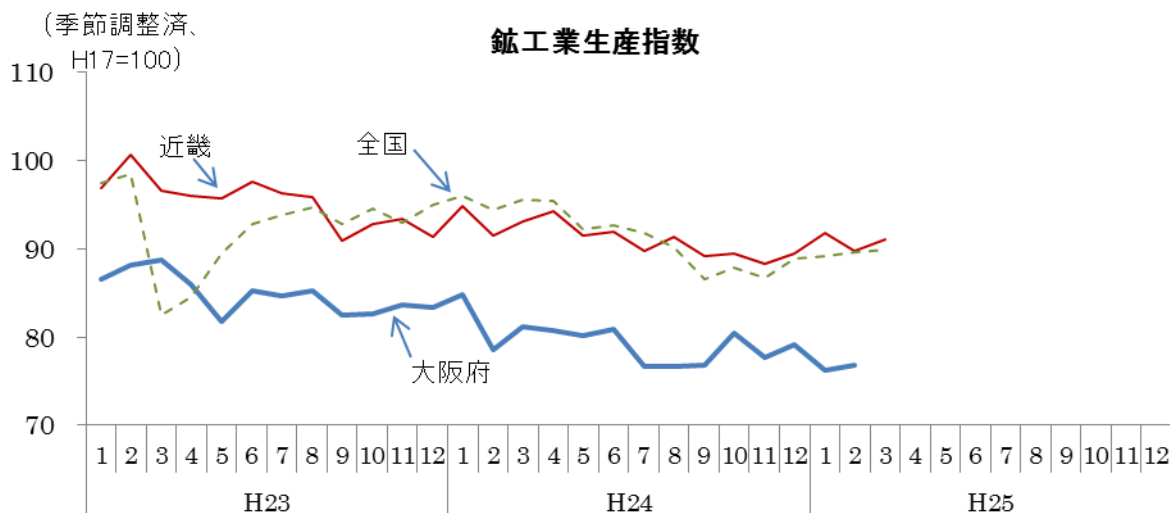
関空取扱貨物量		大阪港コンテナ貨物取扱個数			
	H25年1月	2月	3月		
千トン	49	P 46	P 59		
前年比 (%)	1.3	P ▲17.7	P ▲7.6		
			H25年1月	2月	3月
			P 179	PP 137	PP 173
			P 5.9	PP ▲2.6	PP ▲2.2

※PPは速報値

[供給] 生産

生産動向は持ち直しの動きがみられる。大阪府(2月)は出荷が低下したが、生産は増加。近畿の生産(3月、鉱工業)は上昇、全国の生産(同)は上昇。在庫循環は在庫調整・在庫減らし局面。

○鉱工業生産指数【大阪府(2月)は2ヶ月ぶりの上昇。電子部品・デバイス、化学などが上昇。近畿(3月)は2ヶ月ぶりの上昇。全国(3月)は4ヶ月連続で上昇】



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。

H17=100 季調済	H25年1月	2月	3月
大阪府	76.2	P 76.8	
近畿	91.8	89.7	P 91.1
全国	89.1	89.6	P 89.8

産業別の主な変動
(大阪府、前月比(%)、寄与度順、2月速報)

上昇	電子部品・デバイス(33.4):液晶素子 化学(2.1):化粧品、フルオロカーボン 金属製品(1.7):橋りょう、鉄骨
低下	一般機械(▲2.2): 一般用バルブ・コック、プラスチック用金型 石油・石炭製品(▲6.4):ガソリン 印刷(▲3.9):平版印刷(オフセット印刷)

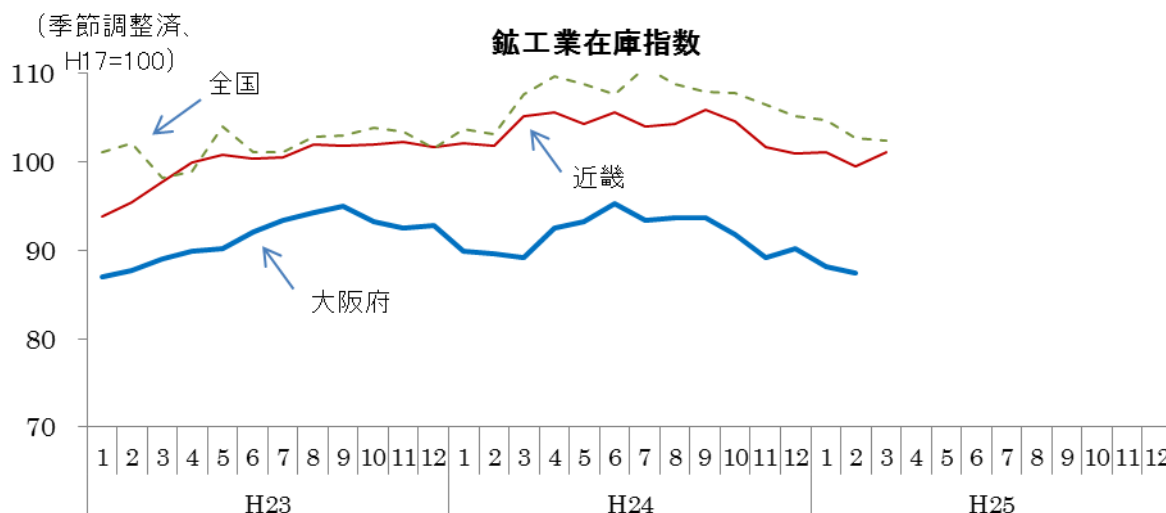
○鉱工業出荷指数【大阪府(2月)は3ヶ月連続の低下。情報通信機械、石油・石炭製品などが低下。近畿(3月)は2ヶ月ぶりの上昇。全国(3月)は2ヶ月連続の上昇】

H17=100 季調済	H25年1月	2月	3月
大阪府	77.2	P 77.0	
近畿	91.5	90.7	P 91.1
全国	90.0	91.3	P 91.6

(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数

[供給] 生産

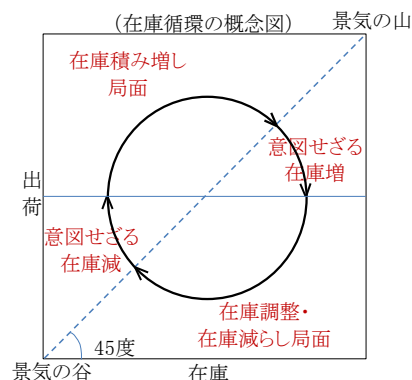
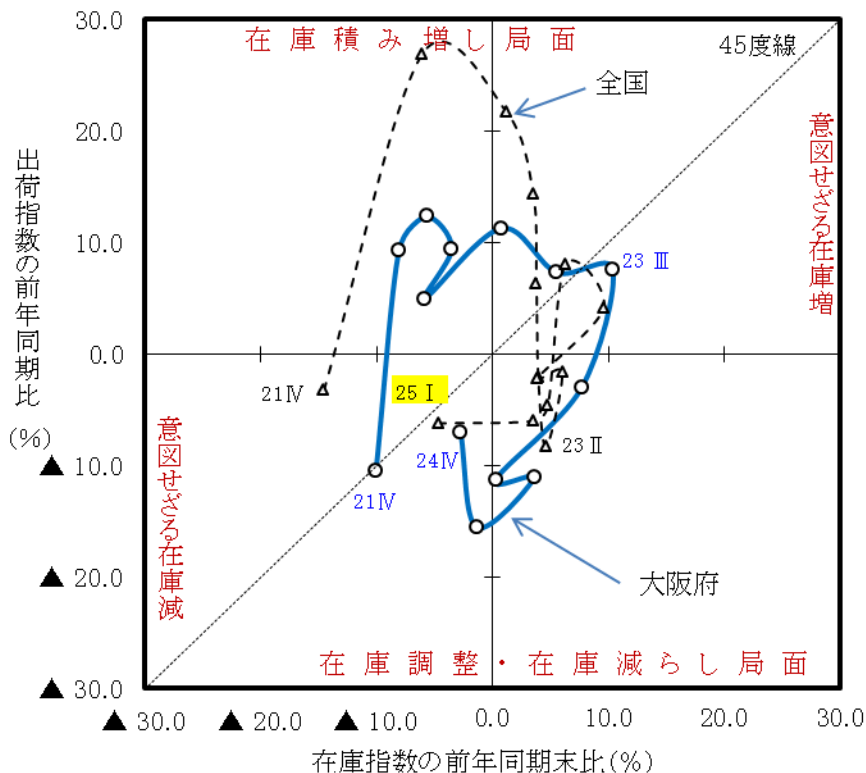
○鉱工業在庫指数【大阪府(2月)は2ヶ月連続の低下。一般機械、金属製品などが低下。近畿(3月)は2ヶ月ぶりの上昇。全国(3月)は8ヶ月連続の低下】



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数

H17=100 季調済	H25年1月	2月	3月
大阪府	88.1	P 87.4	
近畿	101.1	99.4	P 101.1
全国	104.7	102.6	P 102.4

○在庫循環図【大阪府、全国とも在庫調整・在庫減らし局面】



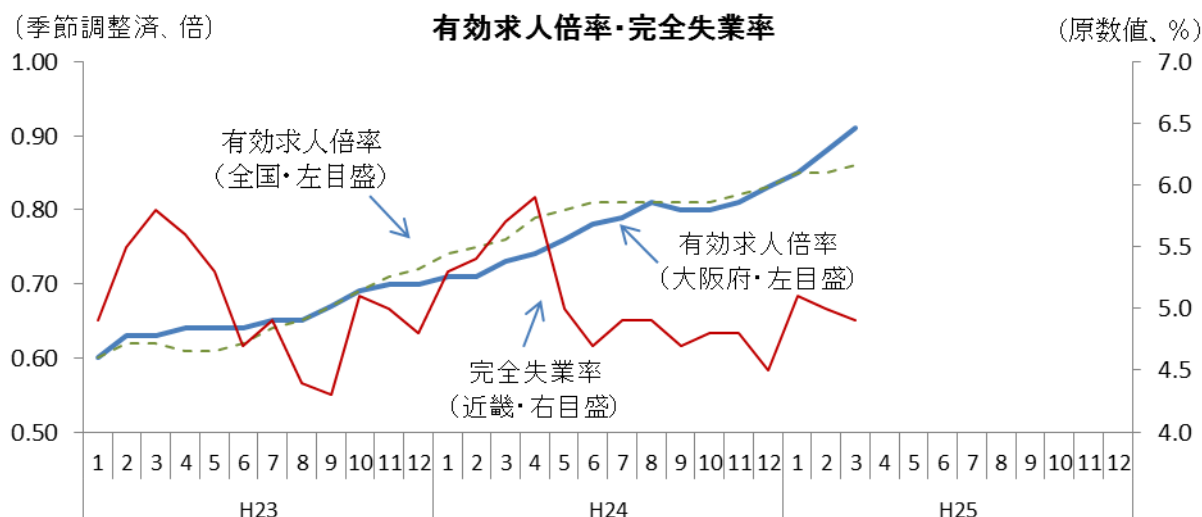
(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「鉱工業の在庫循環図と概念図」

※出荷指数は原数値の四半期平均。在庫指数は原数値の四半期期末月の数値。大阪府は製造工業指数。四半期は暦年ベース。

[供給] 雇用・倒産

雇用は緩やかに持ち直している。所定外労働時間は減少したが、近畿の失業率は改善、有効求人倍率、新規求人倍率はともに上昇。倒産は件数、負債金額ともに減少。

○完全失業率【近畿(3月)は前年同月差で低下(改善)】 有効求人倍率【大阪は上昇】、新規求人倍率【大阪は上昇】



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」、総務省統計局「労働力調査」 ※有効求人倍率はパートを含む。

完全失業率(近畿、原数値)

	H25年1月	2月	3月
%	5.1	5.0	4.9
前年同月差	▲0.2	▲0.4	▲0.8

完全失業率(全国、季節調整値)

	H25年1月	2月	3月
%	4.2	4.3	4.1
前月差	▲0.1	0.1	▲0.2

大阪府、近畿及び全国の完全失業率(原数値、%)

	H24年4~6月	7~9月	10~12月
大阪府	5.4	5.6	5.6
近畿	5.2	4.8	4.7
全国	4.6	4.3	4.0

(資料)大阪府統計課「大阪の就業状況」、総務省統計局「労働力調査」

有効求人倍率(季節調整値、倍)

	H25年1月	2月	3月
大阪府	0.85	0.88	0.91
全国	0.85	0.85	0.86

(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」 ※パートを含む。

新規求人倍率(季節調整値、倍)

	H25年1月	2月	3月
大阪府	1.37	1.50	1.52
全国	1.33	1.35	1.39

若年者の有効求人倍率(大阪府、倍、2月)

24歳以下	0.98
25~34歳	0.98

(資料)厚生労働省「職業安定業務統計」
※就職機会積み上げ方式、パートを含む

新規求人数の主要産業別の増減

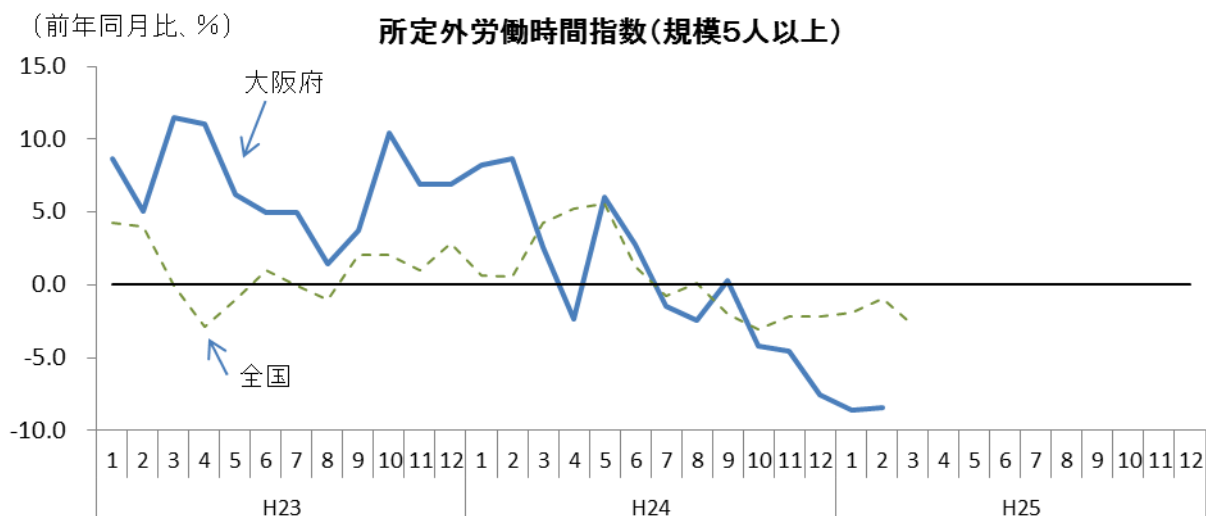
(大阪府、前年同月比(%)、3月)

建設業	7.9
製造業	▲4.3
卸売業、小売業	22.8
宿泊業、飲食サービス業	98.2
医療、福祉	19.9

(資料)大阪労働局「求人・求職状況速報」
※新規求人数の増減は原数値での比較

[供給] 雇用・倒産

○所定外労働時間指数【大阪府(2月)は5ヶ月連続の減少。主に教育, 学習支援業、電気・ガス・熱供給・水道業などが減少】



(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」

※事業所規模5人以上、前年同月比は労働時間指数(H22=100)による。

		H25年1月	2月	3月
H22=100	大阪府	99.0	102.1	
前年比 (%)	大阪府	▲8.6	▲8.4	
	全国	▲1.9	▲1.0	▲2.8

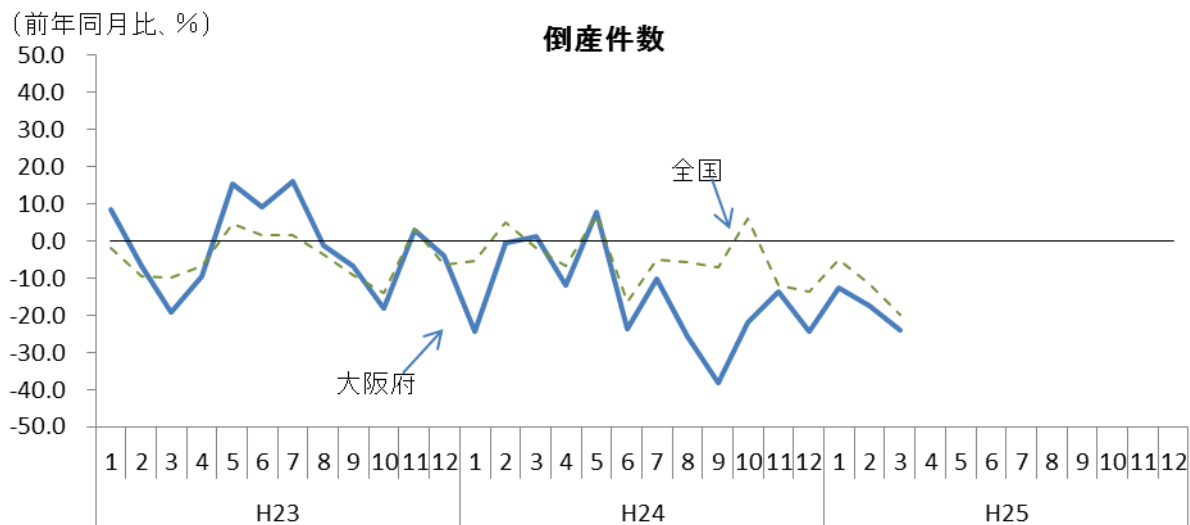
産業別所定外労働時間の主な増減

(大阪府、前年同月比(%)、2月)

増加	複合サービス事業(23.5) 生活関連サービス業、娯楽業(11.1) 学術研究、専門・技術サービス業(9.7)
減少	教育、学習支援業(▲36.5) 電気・ガス・熱供給・水道業(▲24.5) 建設業(▲23.5)

[供給] 雇用・倒産

○倒産【倒産件数は10ヶ月連続の減少(改善)。負債金額は5ヶ月連続の減少(改善)】



(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

倒産件数

		H25年1月	2月	3月
件	大阪府	119	123	129
前年比	大阪府	▲12.5	▲17.4	▲24.1
(%)	全国	▲5.1	▲11.7	▲19.9

負債金額

		H25年1月	2月	3月
億円	大阪府	146	77	125
前年比	大阪府	▲25.0	▲43.9	▲34.0
(%)	全国	▲35.7	▲72.7	▲52.3

主要業種の倒産件数(大阪府)

	H25年1月	2月	3月
建設業	29	33	29
製造業	13	14	24
卸売業	9	15	27
小売業	15	17	9
サービス業	24	28	24

主な倒産(大阪府、3月)

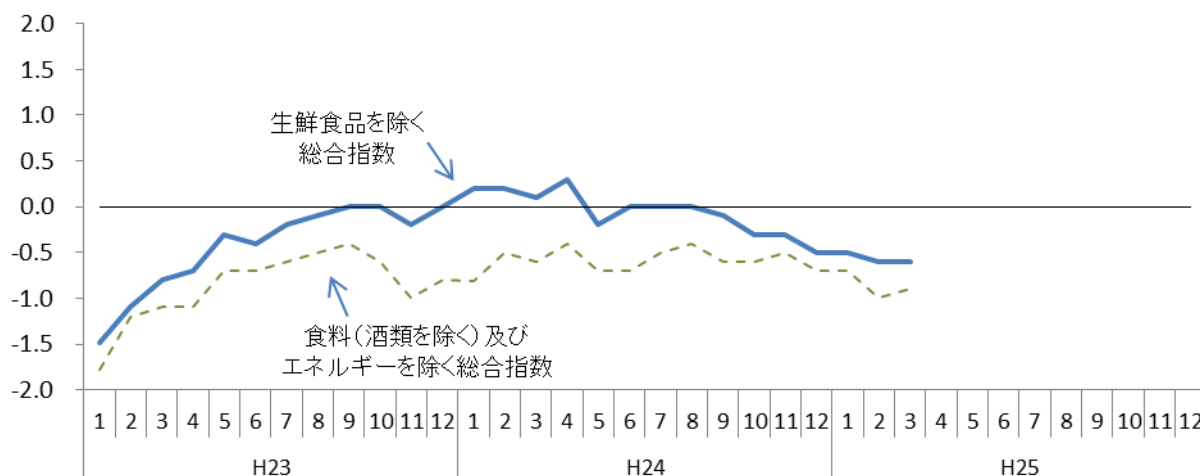
業種	負債額 (百万円)	倒産原因
信用保証、経営コンサル	2,000	他社倒産の余波
戸建分譲	1,034	販売不振
鍍金加工	800	販売不振

[その他] 物価

○消費者物価指数【大阪市の生鮮食品を除く総合指数は低下。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数も低下。食料、教育娯楽、家具・家事用品などが低下に寄与】

(前年同月比、%)

消費者物価指数(大阪市)



(資料)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」、総務省「消費者物価指数」 ※H22=100

生鮮食品を除く総合指数(H22=100)

		H25年1月	2月	3月
指数	大阪市	98.9	98.8	99.0
前年比 (%)	大阪市	▲0.5	▲0.6	▲0.6
	全国	▲0.2	▲0.3	▲0.5

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合指数(H22=100)

		H25年1月	2月	3月
指数	大阪市	97.7	97.5	97.8
前年比 (%)	大阪市	▲0.7	▲1.0	▲0.9
	全国	▲0.7	▲0.9	▲0.8

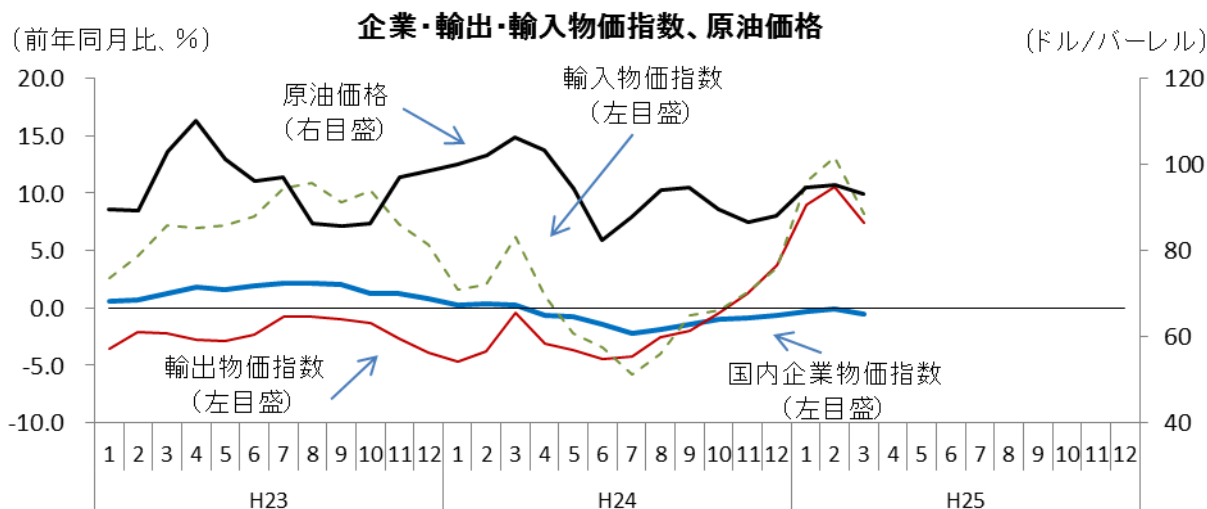
主に変動した分類

(大阪市、前年同月比(%)、寄与度順、3月速報)

上昇	光熱・水道(0.1):他の光熱(灯油)
低下	食料(▲2.3):野菜・海藻(ねぎ、レタス、きゅうり)、果物(りんごB、レモン、いちご)
	教育娯楽(▲2.9):教養娯楽用耐久財(テレビ、ビデオカメラ、ビデオレコーダー)、教養娯楽用品(トレーニングパンツ、グローブ、園芸用土)
	家具・家事用品(▲4.8):家庭用耐久財(電気炊飯器、ルームエアコン、電気カーペット)、室内装備品(照明器具、カーテン、置時計)

[その他] 物価

○企業物価指数【国内企業物価指数は低下、輸出物価指数、輸入物価指数は上昇。原油価格は低下】



(資料) 日本銀行「企業物価指数」、IMF「Primary Commodity Prices」

※輸出・輸入物価指数は円ベース。物価指数は H22=100。

企業物価指数 (前年同月比 (%))

	H25年1月	2月	3月
国内企業物価指数	▲0.4	▲0.1	▲0.5
輸入物価指数	9.0	10.5	7.5
輸出物価指数	10.8	13.2	8.2

原油価格 (WTI)

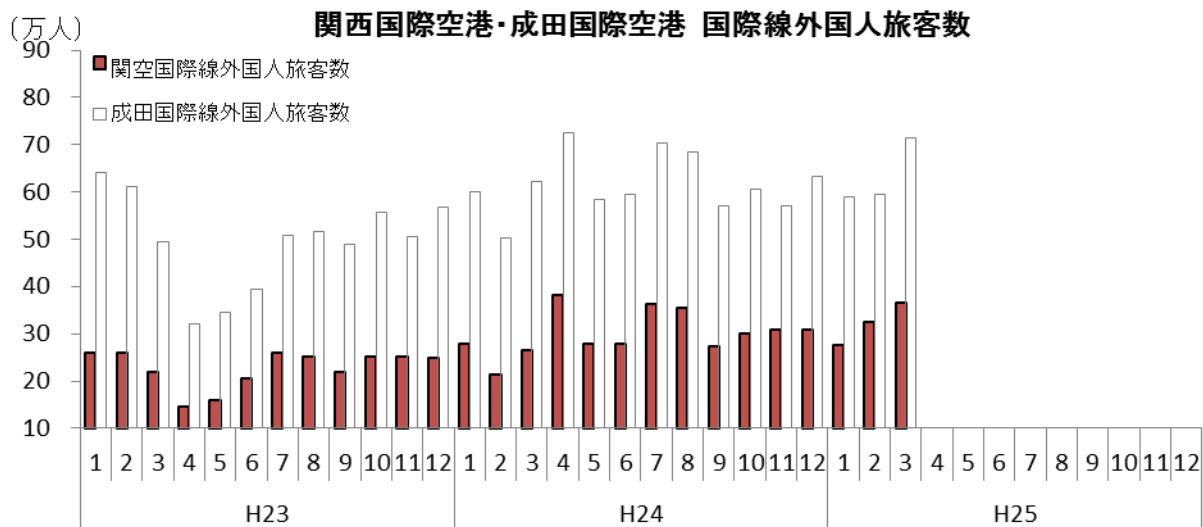
	H25年1月	2月	3月
ドル/バーレル	94.65	95.30	93.12

国内企業物価指数の前月差変化に寄与した
主な類別・品目 (3月速報)

石油・石炭製品 (0.22) :
ガソリン、軽油、ジェット燃料油
スクラップ類 (0.13) :
鉄くず
化学製品 (0.12) :
プロピレン、エチレン
電力・都市ガス・水道 (0.02) :
産業用特別高圧電力、産業用高圧電力、 大口都市ガス
鉄鋼 (0.02) :
小型棒鋼、ステンレス冷延鋼板

[その他] 観光

○関西国際空港 国際線外国人旅客数【13ヶ月連続で増加】

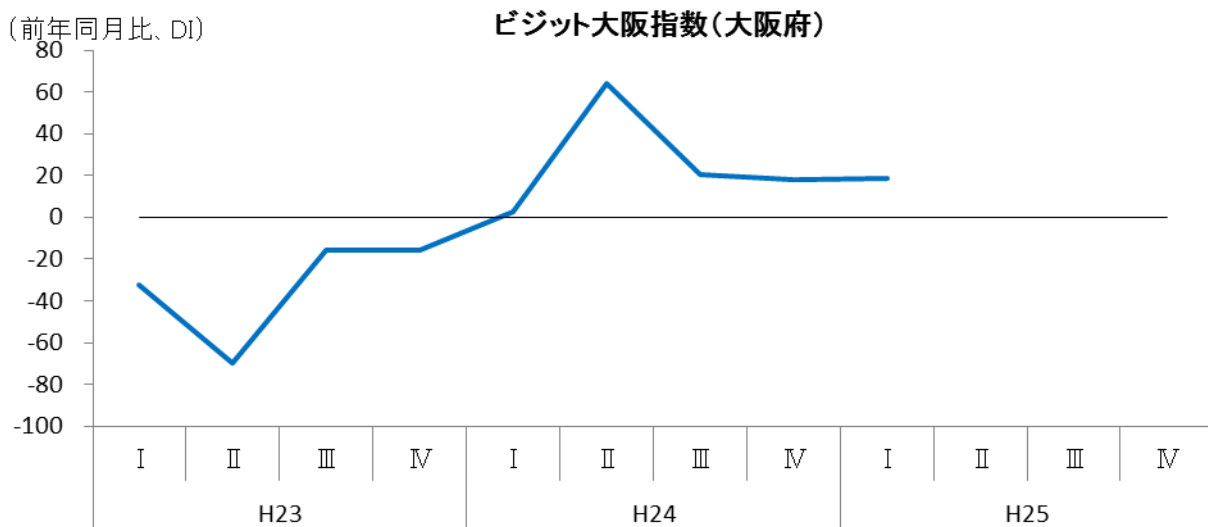


(資料) 新関西国際空港(株)「運営概況」、成田国際空港(株)「運用状況」

関西空港外国人旅客数

	H25年1月	2月	3月
万人	27.9	P 32.5	P 36.5
前年比(%)	0.2	P 51.8	P 37.8

○ビジット大阪指数(DI)【前年同期比で、1～3月期は前回調査より大幅に上昇】



(資料) 大阪府都市魅力・観光課「大阪府観光統計調査」

※四半期は暦年ベース。DI:「好調」の割合(%)－「不調」の割合(%)。

	24年7～9月	10～12月	25年1～3月
DI(前年同期比)	20.5	18.2	37.1